

タウンミーティング 会議録

日 時：平成 18 年 11 月 27 日（月） 19:00～21:30

場 所：黒部市民会館（三日市）

テーマ：「新生黒部市のまちづくり」 ～総合振興計画策定に向けて～

参加者：132 人

【事務局】

ご苦労さまです。予定の時刻になりましたので、ただいまから平成 18 年度黒部市タウンミーティングを開催させていただきます。皆様ご案内の通り、新市誕生後初めてのタウンミーティングということで、市内 4 カ所、中学校校下ごとに開催させていただいております。

今回のテーマは、「総合振興計画の策定に向けて、新生黒部市のまちづくり」ということで、市長からこのテーマにつきましてご説明申し上げます。この説明には 25 分程度要すると考えております。その後、順次会場の皆様からご意見、ご提言をいただきたいというふうに考えております。

もう一つ、本日、受付で配布いたしました黄色のアンケートにお答えいただきますとともに、実際にご発言いただかなかった方からもたくさんご意見をお寄せいただきたいというふうに考えております。日頃感じておられることをご自由に、気軽にお書きいただきたいというふうに考えております。お寄せいただいた意見につきましては、これから策定を進めていきます総合振興計画の参考にさせていただきたいと考えております。

それでは、堀内市長からご挨拶とテーマに関しまして基本的な考え方を述べさせていただきます。よろしく願いいたします。

【市長】

詳細については、「市長あいさつ及び下記の課題について（提起）」をご覧ください。

【事務局】

それでは、これから会場の皆様からご意見、ご提言をお受けいたします。発言される方は挙手をお願いいたします。係りの者がマイクをお渡ししますので、地区名、お名前につきご意見等を述べていただきます。

それともう一つお願いがあります。このタウンミーティングでは限られた時間の中でできるだけたくさんの方からご意見等を頂戴したいと考えております。発言はなるべく簡潔に、お一人 3 分以内でお願いしたいと思います。それでは最初に振興会にお願いして、あらかじめ発言の旨を伺っております 6 名の方から発言をお願いしたいと思います。最初に大布施地区の A さん、おいでになりましょうか。よろしく願いいたします。

【Aさん】

こんばんは。大布施地区の A です。黒部川流域洪水ハザードマップに関しまして一点お伺いしたいと思います。本日のタウンミーティングの対象地区、若栗、荻生、大布施は黒部川の沿岸にあり、豊かで、きれいな水の恩恵を受けております。しかしながら、この水も一旦大雨になりますと大洪水となり、過去、幾たびの大きな被害を被った歴史があります。近年、上流にダムが造られ、大量の水がいきに出ることは少なくなりましたが、顕著になってきた地球温暖化に伴う異常気象を思うと、いつ大きな天災がまた発

生してもおかしくない状況にあると考えます。

かかる状況のもと、昨年4月に黒部川流域洪水ハザードマップが作成され、市の防災計画に盛り込まれたことは沿岸住民にとって誠にタイムリーであり、また、とても嬉しく感じているところであります。日頃、市長は自分の安全は自分で守ることが大切であると述べています。このことは当然であると認識しておりますが、災害が発生した場合、初期行動が極めて重要であり、さらに組織的に行動することによって被害を最小限度に食い止めることができるものと考えております。マップの配布により、関心が高まると同時に、一人暮らしの方、体の不自由な方、あるいはお年寄りの方、有事になった際、本当に助けてもらえるのだろうかとの不安をもった方が多くなってきている現状であります。

つきましては、このような弱い立場の人の不安解消、災害時における地域ぐるみの迅速な対応、さらに、天災は忘れた頃にやってくるとの格言があります。災害に対する関心や緊張の継続を図る観点からも、マップをベースに更に一步突っ込んだ取り組みが必要かと考えます。例えば、住民参加による訓練、あるいはリーダーの育成等々についてどのように取り組もうとして考えておられるのか。また、各自治振興会や町内会に対してどのように指導しようとしているのか伺いたいと思います。よろしくお願いいたします。

【市長】

ありがとうございました。今程、大変貴重なご意見をいただいたと思っております。災害は忘れた頃にやってくるという話から、前中沖知事は「災害は忘れないうちに必ずやってくる。」という名言を残されたわけではありますが、私もそのように思っております。

先日の北海道の佐呂間町の竜巻、あるいは、お話しあったようにゲリラ的な降雨、黒部川流域におきましても山間地を中心に今まで想定しなかったような雨の降り方が毎年起こっております。たまたま洪水調節のためのダムの恩恵で大きな被害は出ていないわけではありますが、本当にこの気象変化っていうものを痛切に感じているところであります。

その災害の対策として、言われましたように、やはり一番基本は、家族でお互いに災害時に助け合うという、その自助努力が必要だというふうに思っております。その次は、行政の応援あるいは消防団の到着などを待つ前に地域ぐるみで、特に災害弱者といわれる方々の救出支援を、是非、地域ぐるみで行っていただきたい。これを共助体制というのではないかというふうに思います。そして、先程言いましたように、行政施策とすれば、公助として組織で災害復旧あるいは減災に努めてきたというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

昨年、旧黒部市におきましてはタウンミーティングのテーマが防災でありました。その時にもいろいろお話をさせていただいたわけではありますが、各地区の自主防災組織の結成率、昨年のタウンミーティングの時点では62%だったわけではありますが、新市になりまして、今現在、地区の自主防災組織の結成率が95%まで上がっております。私は90%を一つの目標に是非、自主防災組織を結成していただきたいというお話をさせていただいていたわけですので、95%になったということですので、来年度からそういう各地区の自主防災組織の連携を図りながら防災訓練、あるいはそういう防災組織のリーダーを養成していきたいというふうに思っておりますので、その防災訓練の実施方法については、まだ具体的に決めておりませんが、各地区の主催によって行っていったらどうかなというふうに、各自治振興会単位なのか、あるいはこういう様に中学校下単位なのか、少し検討させていただいて、各地区持ち回りの黒部市全体の防災訓練を継続的に実施していきたいなというふうに思っております。

そしてまた、先程も言いましたように、この体制につきましては、防災もそうですし減災も行政だけでは決して充分ではございませんので、改めてお願いいたしますが、市民の皆さんあるいは地域の皆さんとの連携っていうものが大変重要でありますので、一部、まだ自主防災組織の結成に至っていない地区もござ

いますので、できるだけ早い時点で 100%結成していただいて、その連携に努めていきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願い申しあげたいと思います。以上です。

【事務局】

Aさんよろしいでしょうか。

【Aさん】

ただいま直接市長さんにお答えいただきましてありがとうございました。私どもも安全で安心して暮らせる地域を目指して、より会話のある町内あるいは防災に関する地域のリーダーの育成に積極的に取り組んで参りたいと思います。ご指導よろしくお願いして私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

【事務局】

それでは、続きましてお2人目、三日市地区のBさん。よろしくお願いいたします。

【Bさん】

皆さん、こんばんは。東三日市から来ましたBと申します。今日は私、年齢が若干皆さんよりも若く、若いなりの発言をさせていただきたく発言の場をいただきました。この頃、やらせの問題とかが多いのですが、私は自分なりの意見でいろいろと発言させていただきますので、皆様や行政の皆様にはちょっと不適切な発言があるかもしれませんが、その辺ご了承頂きたいと思います。

今日は、私の方で3点、大きなテーマをもちましてご質問させていただきたく発言させていただきます。1つは子育て少子化対策、2つ目は黒部市の観光ということ、3つ目は私が三日市なので、主に三日市の都市計画、あとは新庁舎の件に関しましてご質問したいと思います。

まず、少子化、子育てなんですけど、国の方ですが、今年度に入って児童手当の支給年齢を上げました。あと新川地区でも、入善や朝日の方でいろいろ医療の補助の方とか新聞でうたっておりますが、黒部市独自の少子化対策といいますが、そういうような対策がありましたらお伺いしたいという件が1つと、あとは、子育ての環境が整ってはいませんが、黒部市の方でも徐々に、どんどん見直されてきている、進んできていると思うんですけども、私自身、三日市の「かって屋」で、コミュニティサポート黒部というNPOの方で活動しておりますが、あちらの中に、パパママサポートセンターという主婦の方が中心になって子育て支援を行っております。ああいうものとかいろいろできたり、あと、去年ですが、私もPTAの役員をやっております、三日市保育所が民営化になって、親御さんがいろいろと働く環境が徐々に整ってきているのではないかなと思うんですけども、黒部市での少子化対策、子供を産みたくするような環境というものを今後どういうふうにお考えなのかお伺いしたい、ということがまず1点でございます。

次に、三日市の観光ということで、こちらの方は先日、新黒部駅のモニュメント建設の件で新聞に掲載されていたと思うんですけど、ウルトラマン、こちらの方は景観を損ねるということで、よろしくないという話をちらっと新聞で読みまして、20mか30mのウルトラマンが、ポーンと一つありますと、やはり何だこれはっていうふうな感じにはなるかなと思うんですけど、私としましては、日本各地に、例えば鳥取の境港の方にゲゲゲの鬼太郎のモニュメントがまちの中にいろいろと銅像があると。また近くでは、福井の敦賀の方、こちらの方ですと銀河鉄道999やヤマトのキャラクターのモニュメントが点在しているという状況がありまして、三日市も、まちの中にウルトラマン、いろいろ20何体、30体程あるんですけど、ああいうのは、宇奈月、生地、三日市と点在させて全国からの観光を呼び起こすような一つの計画を立ててもいい

んじゃないかということで、円谷プロダクションに相談を持ちかけてもいいんじゃないかなというふうな思いがありまして、その辺、行政としまして、どういうふうなことができるかなと思ひまして、ご質問させていただきました。

次に、都市計画ということで、三日市のまちの中なんです、突き当たりが多いというか、新しい道をどんどん建設されてはいるんですが、都市計画なのか、途中で終わっているのか全く分からないままの状態になっているような雰囲気が私の中でありまして。今現在、三日市をみますと、大黒町が徐々に発展しているような感じはあるんですが、あと大町の道幅で8号線の方まで伸びていくという計画も伺ったりはしておりますが、予算の関係上、はっきりした計画は申し上げられないかとは思ひんですが、大体の目安でいいんですが、東三日市の天神社の横の道路、あちらの方がコラーレの方から降りてくる道と突き当たる直線道路になるというふうなお話を2、3年位前から伺っているんですが、現在まだそこまでたどりついていない。東三日市の運動会では、毎年毎年、会長さんがお宮さんの桜並木が今年いっぱい、今年いっぱいということでもう3年経っています。こういうのがありまして、実際、地元でも計画がどういうふうに進んでいるのか全く見えてこないというところをもう少し分かりやすくご説明いただけたらなと思ひます。

あと新庁舎、こちらの方、行政の方ではいろいろと計画があるんだと思ひんですが、やっぱり三日市としましては、現在、三日市の方に市役所の方がありまして、先日っていいですか、三日市小学校が移転しまして跡地の問題とかもあると思ひんですが、やはり金融機関等の中心も三日市の方にありますし、三日市小学校の跡地を有効利用できないのかという意見とかも聞いてございますので、行政としましては、今そういう三日市小学校の跡地とか、あの辺の今後の取り扱いをどのようにお考えなのか、その辺を伺いたいと思ひます。

後先になります、一つ抜けましたので、黒部市の施策の方でちょっとお伺いしたいことがありまして、先程、市長からもいろいろプレゼンの方でお話がありました。現在、高齢化対策ということで、いろいろ対策を組んでらっしゃるような行政の流れでございますが、私達、私は36歳ということで青年、壮年だと思ひますが、私達としましては、もっと活気のある市にしてもらいたいということで、若者が移り住みたくなくなるようなまちづくりの必要性があるのではないかと考えております。

なので、少子化対策ではありませんが、子供3人以上になると、こんなにいいことがあるとか、税制面で2人以上になると特にこんなふうに税金が安くなるよとか、あと、行政機関の施設の無料券を配ったり、子供を育てる環境も少し優位っていいですか、黒部に住んでいてもいいなっていう思いを、若者の方も持っていたらなと思ひますけれども、先程の市民アンケートの結果で、住みたいまちですよ、ということでご意見いただきましたが、ちょっとクレームではないんですが、あの結果について年代別の意見をちょっとお伺いしたいなと思ひまして、41%~42%の解答があったというお話を伺いましたが、こちらの方、年代別で住みたいと思われた方々の年代の方とか、あとは、いろいろ高齢化対策をもっととって欲しいといわれた年代の方、多分20代ではないと思ひます。住みたいという内容でも、やはり現在住み続けたいというのが、移動できる年齢ではない方がそんなふうにおっしゃられたのか、今、若い人達が黒部市は最高にいいところだということで、アンケートに答えていただいたのか、その辺も伺いたいなと思ひます。以上です。ありがとうございます。

【市長】

ありがとうございました。大変多くの質問をいただいたわけでありまして、端的に順番に今考えていることをお話申し上げたいと思ひます。

まず初めに、子育て、少子化対策ということであります。子供を産み育てることに喜びを感じられるような市をつくって欲しいというようなことだと思ひますが、黒部市ならではの少子化対策、子育て支援が

ないのかということであります。皆さん方に思い出していただきたいのは、今年の3月31日に合併した時に、保育料を値下げさせていただきました。旧黒部市と旧宇奈月町の保育料金の体系があったんですが、それを合わせて、いずれも安い方を採用するということで、このことによって保育料をお安くさせていただいた分がどれだけあるかといいますと年間4,300万円、市の負担を増やしたということであります。そういう意味では保護者の皆さんの方からすれば、負担の軽減になった、県内の中でもかなり安い保育料になったのではないかというふうに思っているところであります。

子供たちの医療負担とかいろんなお話がありますが、今のところ、市といたしましては、経済的支援については独自のものは考えておりません。私はよくお話させていただくんですが、この少子化対策、子育て支援というのは、本当に経済的支援だけで子供を増やしてもらえるのか。やはり一番大事なのは、地域の力で子供を産み育てることに喜びをもってもらえるような地域力の回復っていうものが一番大事だと思います。子供を1人育てるのか2人育てるのか3人育てるのかっていうのは、もちろん経済的なこともあります。やはり、たくさんの子供を持つことの喜びを感じてもらえるような、そういう地域ぐるみの子育て支援を行っていききたいというふうに思っておりますので、その点、経済的支援だけで本当に子供が増えるのかといったということについては、できるだけ支援はしますが、家族の力とか地域の力、まち、市全体で子育てを支援する、そういうような方策が一番大事ではないかというふうに思っています。

県では、富山子育て応援団ということで、お子さんを連れていらっしゃるようなところへ行かれたら割引をしてもらえるような、そういうような事業を来年度から始められるわけでありますが、黒部市の中でも、この協賛店として今73軒協賛をいただいております。このように、富山県としてでも先程言いましたような、県民あげて子育てを支援するためのそういう施策を進めようと、富山子育て応援団ということで進めようといましておりますので、そういうところには当然、民間の皆さん方にも是非協力をいただいて、先程言いました地域ぐるみの子育て支援の雰囲気を作っていきたいと考えておりますので、振興会あるいは町内会の役員の方にも、その点ご理解をいただいて、一番大事なのはそういう雰囲気を作ることというのが一番大事ではないかと思っておりますので、ご理解をいただきたいと思っております。

次は、ウルトラマンの話だったと思います。実は、先日の女性議会でウルトラマンのモニュメントを新幹線の駅前に設置したらどうかというご質問を受けて、私はその答弁では、そのことについてはあまり好ましくないのではないかと答弁をさせていただきました。それはなぜかといいますと、まず新幹線の駅周辺のイメージ、それは基本的には黒部らしい駅周辺を作りたいと。それはどういう意味かといいますと、森の中の駅、公園の中の駅、そういう黒部市、富山県、北アルプスの景観を損なわないような駅周辺を作っていきたいというふうに思っております。巨大なウルトラマンの看板のようなものを設置することについては、いかがなものかというふうなお答えを申し上げました。

しかし、ウルトラマン人気最近随分ありまして、特に初代隼人隊員をやっておられた黒部進さんについては、大変、黒部市のイメージでございますので、黒部進さんは先日もNHKの番組30分で黒部市のPRあるいは家族のPRをなされておったわけでありますが、そういう意味では、お茶の間のヒーローとして頑張っておられますし、今、黒部進さんはコラーレの運営委員会の芸術顧問を行っていただいていたたり、コラーレで2カ月に1回程度の男の料理教室を主催していただいていたたり、それは皆さん方どなたでも自由に参加できるんですが、そういうふうに随分この地元貢献をいただいております。そしてまた富山県におきましても北日本新聞が主催する越中の守、越中を自慢する会の会員、名誉会員になっておられて富山県のPRにも随分ご尽力いただいておりますというふうに思っております。黒部進さんについては地元のヒーローとして私も大変感謝いたしております。

そういう中で、ウルトラマンのモニュメントというのは駅前に置かなくても、例えば、駅の施設の中に、先程も言いましたが、地域観光ギャラリー。要は駅と併設される都市機能を持つ施設ができる予定であり

ますが、そういう中に、例えば等身大程度のウルトラマンの像みたいなものを設置したり、その関連のことをPRしたりすることは、それはそれでいいのではないかというふうに思いますし、例えば村椿出身でもありますので、村椿地域あるいは生地の魚の駅なんかでも結構ではないかと思うんですが、そういうところに初代ウルトラマンの生誕の地だよというようなことをPRするということについてはいいのではないかというふうに思いますので、そういうところでウルトラマンを活かしていきたいというふうに思いますので、よろしくお願ひ申し上げたいというふうに思います。

次に、三日市地区の都市計画ということであります。2点に分けてお話されたと思います。1点は、三日市保育所周辺の土地区画整備事業であります。梶町、大黒町それから荻生地区の一部をエリアにする31.3haで総事業費が136億円の事業規模で、平成8年から始めさせていただいて平成29年度までの予定で今、事業を進めております。大変大きな土地区画整備事業でありまして、移転物件だけでも245戸ございます。その内、今85軒の方に移転いただきました。この進捗率は35%程になりますが、約3割の方が移転されたということでありまして、事業費的には今現在33億5,000万円程事業執行いたしております、事業費的には25%程の進捗率ということでありまして、このことについては大変多くの地区の皆さんにご理解とご支援をいただいてここまで進めてきたわけでありまして、今後とも、できるだけ早い整備を行うように努めていきたいというふうに思っておりますので、事業についても随分年数が経ったわけでありまして、三日市地区の方から進捗状況がよく見えないというようなご質問でもあったと思いますので、こういう大型プロジェクトについては、その事業ごとに、もう少し皆さんに理解していただけるように市のホームページなり、他の手段を使ってでも、やはりその事業進捗について、皆さん方に広報することを行っていききたいというふうに思いますので、その点についてもよろしくお願ひ申し上げたいと思います。

それから、もう一方の都市計画については、今ほど言われた道路のことでありました。特に、東三日市の天神社のところの道路がいつ、どうなっているのかと。毎年、この桜の木はもうなくなるといわれながらあるということでありまして、なかなか皆さん方には今の事業進捗は目に見えておられないわけでありまして、今、用地の取得を行っております、約50%取得をさせていただきました。県道でありますので、残り50%、県の予算も限られているわけでありまして、今後、残り50%の用地取得と、その後の工事を含めて、今のところ平成24年までに完成をすることで今進めさせていただいておりますので、その点についてはよろしくお願ひ申し上げたいと思います。

それから、道路の行き止まりが多いということもご指摘いただきましたので、少し都市計画道路、三日市地区のことについてご説明を申し上げたいと思いますが、一番言われますのは、新川厚生センター前の道路が東三日市の荻野さんの洋服屋さんのところで行き止まっている。この計画道路につきましては、荻生大布施線ということで、昭和30年から40年頃に計画されて一部だけできあがっているところがございます。それら都市計画道路については、都市計画決定をしてからかなり年数も経っておりますし、新黒部市になりまして都市計画道路の見直しなども今後行っていききたいというふうに考えております。

それから、三日市地区におきまして皆さん方に非常にご不便、ご心配をおかけしているのではないかとと思うのが、都市計画道路の前沢植木線。大町のところで市姫通りということで素晴らしい道路を整備させていただいたわけでありまして、地鉄の踏み切りのところで行き止っております。その前沢植木線につきましても、現在予算化をしております、第一次的には、「すだち」さんという飲食店の所まで整備をできるだけ早く行いたいということで予算化をしております。そしてその後は、新駅中新線までの整備、中央幼稚園の所までをできるだけ早くしたいと思うわけでありまして、認可は「四十物商店」さんの所まで、とりあえず認可をいただいて、その中で「すだち」さんまでを一次的に整備を優先的に進めるというような格好で前沢植木線については着実に進めていききたいというふうに思っておりますので、よろしくお願ひ申し上げたいと思います。

時間も限られておりますので、道路の次は庁舎のことを言われました。庁舎のことについては、先程から言っております総合振興計画の中で庁舎の位置付け、最重点課題として新庁舎というものを考えておりました、その位置付けを総合振興計画の中で明確にさせていただいて、そして位置、場所、内容、規模そして時期について、今の総合振興計画の審議の中で明らかにしていきたいというふうに思います。これまでタウンミーティングを3カ所でやらせていただいております、庁舎問題については非常に皆さん関心もございまして、いろんなご意見もございまして。先程言いましたように市全体のご意見は大変重要でありますので、慎重にこの議論については進めさせていただきたいというふうに思います。言われるように三日市小学校の跡地というものも皆さん方のご意見の中に入っておりますので、その点について、やはり市民、市全体の合意が得られるような理由付け、説得力というものが大変重要ではないかというふうに思いますので、その点また三日市地区の皆さん方、いろんな点で意見を共有いただいて、述べていただきたいなというふうに思っております。

それから、若者が住みたくなるまちづくりということの提言があったわけですが、先程のアンケートの中で高齢者福祉の充実、あるいは整備事業の充実というものが、市民ニーズで多かったということですが、当然それはそのニーズに応えられるように進めなければならない大変重要な課題でございますので、そのことについては一生懸命取り組んでいきたいと思っております。

その一方、若者がこのまちに魅力を感じられるような施策を何か考えてくれということでございますが、大変難しいテーマでありまして、私はこの地域が発展する、あるいはこの地域に魅力を感じてもらえるためには最も大事なことは、やはり雇用の安定ではないかというふうに思っております。やはり安心して働く場があるということが自分達の生活を行なう上で最も重要なことではないかと。そういう雇用が安定しているということ。そしてまた、先程から言っております、安全で安心して生活できるということが大変重要だと。若者においてでもそのことはあまり意識はしないかもしれませんが、当然、大変重要な要素であるというふうに思います。その中で、若者に元気が出るようなまちにするにはどうすればいいのか、それは若者自身がいろいろと考えて、そしていろんなアイデアを出すということが大変重要でありまして、昔からこの地域でもホットフィールドとかあるいは黒部川フェスティバルとかああいういろんなイベントもあったわけですが、行政から仕掛けるイベントではございませぬし、その当時の若者達ももっと楽しいまち、もっとおもしろいまちを作ろうということで、そういうイベントを行なったというようなことも歴史的にはありますので、是非そういう意味では、今の若い人達にやはりどういうまちを作るのかということをしっかりと考えていただいて、そして自らその方法を起こしていただくようお願い申し上げたいというふうに思います。

それから市民アンケートのことでご質問がありました。年代別アンケートはどうだったということですが、その答えは今、私、申し訳ございませぬが持っておりませぬ。2,500人の方に無作為にアンケートを出しております、条件付けはしておりませぬ。その方が統計的には正確な数が出るということなので、年代別に操作してございませぬが、ちょっと事務局からその点、何か報告あればお願いします。

【事務局】

それでは年代別の傾向といたしまして、ずっと住み続けたいと、それと事情が許す限り住み続けたいを合わせますと、40代以上では80.7から96.1という方が定住傾向を持っておられます。ただ、ご指摘ありました通り、20代、30代ではそれぞれ73%、72%と、40代以上に比べまして1割程度低くなっているアンケート結果がございまして。以上です。

【市長】

そういうことでありますので、是非、また年代別アンケート結果が必要ならば公表当然いたしますので、ご覧いただき、また意見を賜りたいというふうに思っておりますのでよろしくお願いいたします。Bさんよろしいでしょうか。

【Bさん】

ありがとうございます。最後の質問もイレギュラーな質問で申しわけございませんでした。最後に、今日ここで私の発言の場を与えてくださいました三日市振興会の皆さま、あと東三日市、大町、寺町町内会のご協力いただきました関係者の方々ありがとうございました。以上で終わります。

【事務局】

どうもありがとうございました。それでは3人目の方に移らせていただきますが、かなり時間が押しておりますので、再度3分以内ということで、よろしくお願いしたいと思います。それでは前沢地区のCさん。よろしくお願いいたします。

【Cさん】

30年くらいぶりにUターンして帰ってまいりました前沢のCでございます。質問させていただきます。先程、市長から新市構想が述べられました、3点程、是非提言をさせていただきます。

平成の大合併で合併構想が大体一段落したとはいえ、次のステップとして魚津、下新川を含めた、大同合併に進まれるんじゃないかとは思ってはありますが、その点、以前は三日市にありましたけど今は前沢にいますので、高台の前沢あたりに新しい新庁舎の構想を作られてはいかがかなという、私ども地元からのお願いもありましてこれを発表させていただきました。

続いて、以前、転勤の関係で住まいをしておりました名古屋、金沢では、いわゆる試験的にパークアンドライドという構想が試験的にスタートしておりますが、新しい新幹線の黒部駅ができた時に、宇奈月駅、温泉街に駐車場が非常に不足している観点から、新幹線駅周辺でマイカーを停めて、いわゆるパークアンドライド、普通、市街地へ入るためのパークアンドライドを作るんですが、新幹線駅周辺にマイカーを全部停めて宮野の運動公園の大きな駐車場なり、新幹線の駅の周辺に車を停めて、あとは地鉄の電車あるいは単体のバスで宇奈月温泉へ入っていくという構想を、多分、都市計画審議会でも審議されているだろうとは思いますが、そういう観点から、そういう構想はどうでしょうか。そうすれば、宇奈月温泉も活性化するだろうし、新駅周辺も非常に賑やかになって活性化するんじゃないか。さらにもう一点進めるとすれば、従来のJR黒部駅周辺をつなげれば、3極、4極の大構想になっていくんじゃないかなという気がしますが、その辺の構想についていかがでしょうかという提言でございます。

それと第3点目は、これは先程市長が団塊の世代というふうに触れられましたので、その中から質問させていただきますと、今30年ぶりに黒部へ帰って来ましてボランティアを兼ねて老人関係の仕事に就いておりますが、団塊世代が定年あるいは仕事を辞めて家に帰るのは、それは結構なんです、今は各老人ホームあるいは特別養護老人ホームですと殆どの施設が150人から300人待ち、順番待ちという構想が、いわゆる富山県下全部押し寄せてきそうじゃないかなと思うんです。そこで、老健施設、3カ月だけしか入れない老健病院が、今3割、4割のベット数が減らされたということで、いわゆる流浪老人、浪人が彷徨っているというのが現状ではなからうかと思うんですが、新川介護保険組合を含めて、黒部市さんは将来の老人対策をどう考えておられるのか、この辺をちょっと聞きたいと思います。以上です。

【市長】

ありがとうございました。まず、1点目は将来の大合併を見据えた庁舎問題というご質問だったと思うんですが、将来の合併が今後どうなるのか、ならないのかにつきましては、今私が思っているのは、平成11年に全国に3,232、3,200余りあった市町村が、今現在、来年の3月、今年度中には1,807、1,400程の全国の市町村が減るとのこと。そしてまた、その中でも富山県が全国一市町村数が少ない15市町村になったということ。そしてまた、合併というのは相手のある話ですから、この地域において、少なくとも新川地区においてはそれぞれの市、町が単独で行なうということであるんな施策を考えておられると。そういう条件を鑑みますと、ここ10年、20年の中で、今後の合併議論が動くかということについては、私は疑問を感じております。ですから将来的、もっと長いスパンで考えれば30年、50年位の議論で考えれば、道州制議論も含めまして更なる再編成というものはあり得ると思いますが、少なくとも総合振興計画の計画期間である平成29年まで、あるいはそこから近い内においては、今後の合併議論はなかなか起きないのではないかというふうに考えております。

そういう中で新庁舎をどうするのかということにつきましては、新しい黒部市になって旧宇奈月、旧黒部が一緒になったわけですから、新しい黒部市として庁舎がどうあるべきかということを考えて上で、先程から言いますように、位置とか内容、規模そして建設時期については判断をしていかなければならないというふうに思っておりますので、よろしく願い申し上げたいと思います。前沢地区、山田新地区に庁舎をいかがかということは初めて聞いた話ではありませんので、別に驚きはしませんが、先程から言います黒部市全体の市の意志、黒部市の合意っていうものが大変重要でありますから、なぜそこがいいんだというようなお互いいろんなアイディア、意見の中でお互いに議論をして意見をまとめさせていただきたいというふうに思っておりますので、よろしく願い申し上げたいと思います。

次にパークアンドライドの話でありました。新幹線の黒部新駅も当然、パークアンドライドを考えておりまして、新幹線開業までの平成26年までには、とりあえず350台の駐車場整備、それからできるだけ早い段階で500台、そして将来的には状況を見極めながら700台までとれるような、そういう想定で今計画を行っております。当然、パークアンドライドとして、そしてまた新幹線と地鉄線がクロスして、そこに地鉄の新駅を併設したいということで、今協議させていただいておりますし、先程言いました地鉄から平行在来の今のJR線への接続なども今、研究させていただいております。そうなれば、やはりこれからの高齢化社会を迎える中で、あるいは環境問題とかいろんな条件を考える中で、やはり公共交通、特に鉄軌道の富山県内のネットワークってものの接続ってというのは大変重要であるというふうに思っておりますので、そういうことを考えれば駅周辺のパークアンドライド、そしてまた、前沢地区から提案が今ありました、初めて私聞きましたが、宮野の駐車場を利用したパークアンドライドなどはどうかというご意見でございますので、宮野地区600台程駐車場、実はあります。新幹線の駅周辺で計画しているより少し多いくらいあります。ですから、そういうもの、宮野山運動公園の駐車場をどういうふうに利活用できるのか、どうするのかっていうことについてもこれから実施計画を立てる上でいろいろ検討させていただきたいというふうに思っておりますので、よろしく願い申し上げたいと思います。

それから、団塊の世代が退職されるということでありまして、老人福祉、老人ホーム対策についてどうなっているのかということでもあります。老人対策として老人ホームレスで彷徨っている方が大変多いと言われましたが、私は新川地域介護保険組合の実は理事長をやらせていただいております。特別養護老人ホームの施設数については高齢者人口の割合からすれば国の基準以上に今現在あります。更なるそういう施設を希望される方が多いわけですが、ここが大事なところで、お金のことをいうわけではありませんが、施設に入られる方の費用負担と居宅で介護を受けて、家族の皆さんと共に生活しながらいろんな介護サービスを受ける場合と、実は施設の方が3倍程かかります。ですから、本当に必要な方には当然入っていただかなければならないんですが、それこそ、地域ぐるみで居宅で介護サービスを受けられるような

そういう体制を整備していきたいというふうに思いますし、また介護を受けないような予防事業、元気な高齢者が増えるような予防事業がこれからも最も大事なところだというふうに考えておりますので、現状においては、高齢者の皆さんには今後とも生き甲斐といろんな事業を受けていただいて生き甲斐を持って元気にお過ごしいただきたいというふうに思いますので、新しいそういう施設を増やすことについては、なかなか難しいというふうに思っているところであります。以上です。

【事務局】

Cさんよろしいでしょうか。

【Cさん】

ありがとうございました。

【事務局】

続きましてどんどんいきたいとします。4人目荻生地区からDさん。よろしく願いいたします。

【Dさん】

荻生地区のDです。新生黒部市は「大自然のシンフォニー 文化・交流のまち 黒部」を将来ビジョンにとられ、市の実現を目指しております。当面の大きな課題は、新幹線開業に向けた駅周辺の設備や公共交通ネットワークの構築など行政主導の都市機能強化対策が山積しております。一方、本日の開催テーマ「交流人口の増加による新たな地域活力の創造」は、むしろ地域住民が中心となって考えていくべき問題だと思いますので、交流人口の増加策について私の考えを2、3述べさせていただきたいと存じます。

まず、第1に全国に発信できるイベントの企画開発が必要とします。郷土に残る豊富な民話や伝説を活かした独特な祭り、例えば全国獅子舞コンクールなど。

第2に新川地区の観光資源を活かしたスポーツ大会。例えば観光スポットを巡る全国ウォーキング大会などです。これらのイベントは近隣市町村との共同開発等が考えられます。

第3にオーナー制観光農園の開設です。果樹やお米、野菜作りをガーデニング感覚で楽しんでもらい、農作業や収穫祭を地域の人達と一緒に交流を深め、豊かなスローライフを実感してもらいたいとします。そのためには農作業体験農場や宿泊施設等の環境設備が必要となります。

第4に特産物の開発です。黒部でしか作っていないもの、黒部に来なければ食べられないものにこだわった特産品のブランド化です。今、食の安全性が重視され、かつ健康志向食材が求められております。雑穀パワーが見直されていることに注目し、その栽培と加工を普及させ、「雑穀の里 黒部」をPRしてはいかがでしょうか。これらグリーンツーリズムの展開によって高齢者や女性のパワーを活かす仕事の場が創出され、地域の活性化につながります。美しい自然に触れ、おいしい郷土料理を食べ、ゆっくりと温泉につきり心身共に癒すことのできるまち、黒部が都会からの大勢の来訪者によって交流が一段と増大することを期待して、私の提言を終わります。

【市長】

ありがとうございました。全国規模のイベントを開催して地域活性化ができないかというお話であります。そのとおりでありまして、全国規模になるようなイベントを育てていく、また計画しながら育てていくということが大変重要でありますし、黒部市におきましてスポーツイベントとしてご存知のようにカーター名水ロードレースが行なわれているわけでありまして、今年度も5,000人近い方が選手として参加を

されております。かつて一番多かった時には、高橋尚子選手が参加した時には5,200人。当然、そこには一緒に来られた家族とか友人といった人達がおられますので、少なくともその倍の方々がその事業に参加いただいているというふうに思っておりますので、この全国規模のイベントを行なうということについては、やはり継続できなければあまり意味ありませんので、どういものが黒部にふさわしく、また継続できるのかというようなことも検討しながら行なっていきたいというふうに思いますので、先程も言いましたが、こういう大きなイベントとか、若者がたくさん集まるイベントっていうのは、やっぱりきっかけは若い人達とか市民の皆さん何人かのアイデアから始まるというのは大変多いというふうに思います。今、日本で一番大きなイベントといわれているのは、北海道のよさこいです。北海道のよさこいが全国で一番大きなイベントだといわれておりますが、大して歴史がなく、20年程前に北海道大学の学生が何人かで、冬は大きなイベントがあるけど、夏、北海道、札幌何もないというので、何人かで楽しいことやろうよってという話で始めたものが、今、祭り期間中に200万人以上来るといって日本最大のお祭りに育ったというようなこともありまして、是非そういう何か新しいアイデアというものを若い人達、市民の皆さんから出していただいお互いに協力していきなうというふうに思います。

それから、棚田や畑のオーナー制度。私も大変このことに興味があります。今、体験型の農業とか観光農業とかっていうものが盛んにいわれておまして、黒部市内でも可能性のあるところが随分あります。特に新幹線駅周辺に果樹をやっておられる方が大変多くあります。桃やリンゴを作っておられる方がご承知のようにたくさんありますし、それが大変おいしいということで、その桃や梨やリンゴがいわれておまして、それを観光に活かすことができないのかというようなことについては、担当課を含めていろいろ検討をいたしておりますので、是非そういう新しいアイデアを皆さん方の方からもお願い申し上げたいというふうに思います。実は、田家地区の阿古屋野の市有休地などを利用した体験型の農業等もどうかというようなこともいろいろ研究はいたしております。そういうようなことも含めて配慮いただきたいというふうに思いますので、それがグリーンツーリズムとして交流人口を増やすことにもつながるといふうにも思っておりますので、是非よろしくお願い申し上げたいと思います。

それから、地域特産品を作ったらどうかという中で、雑穀を利用した新しい特産品作りというところがあります。この雑穀については人気があるようでありまして、大変健康にいいと。私も家行ったら何か緑色とか赤色が交じったご飯をよく食べておりますが、なかなか人気だそうであります。この黒部地域に雑穀の特産品生産が適しているのかどうかというようなこと、また雑穀については、やはりその魅力とか値段とか、あるいは生産体制とかそういうのも当然必要、大事なところでありまして、それらを是非教えていただきながら研究をしていきなうというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。それらのことによつて高齢者とか女性の方々が生き甲斐とかやりがいを感じるということでもありますので、そのことも含めて進めていきなうというふうに思っておりますので、もう少しこの雑穀については研究させていただきたいというふうに思っております。以上です。

【事務局】

Dさんよろしいでしょうか。どうもありがとうございました。続いて5人目ですがEさんおいでになりますか。よろしくお願ひいたします。

【Eさん】

荻生から来ましたEです。意見というか少しダブっているかもしれませんがよろしくお願ひいたします。まちづくりには都市計画が必要です。将来のまちをどう作っていくかの展望です。そのためにも、動線計画の概念を導入して欲しいと思います。駅周辺の設計を見る限り、動線計画が十分になされてい

は思いません。人や車が動くところは太く短くという鉄則が無視されています。駅利用者として一番多いだろうと思われる車が駐車場へ行くのに道路を横断するか遠回りをしなければなりません。1階まで降りてきた客が地鉄を利用するのに、また陸橋を昇らなければなりません。これなど最初の計画の段階で改札口を2階にしておけばよかったです。そうすれば地鉄に行くにも陸橋を新たに作る必要がなく、出口の場所も駐車場口、地鉄口、正面口のように順次設計できたはずで、新たにふれあい広場や陸橋を作る費用も必要ありません。

また動線がクロスして流れが妨げられるという配慮もなされておりません。高速道から駅に向かう車は背骨道路を横切らなければ、駐車場に入れません。せっかく高速を使ってきても駅の近くまで来て渋滞では話になりません。今までの市から提出されている図面を見ても、タウンミーティングで、できた話を地元の不満がないようただ施設を適当に配置して道路や通路でつないでいるようにしか見えません。ゾーンプランニングして、それを矢印でつないでも実際に人や車の流れを考慮しなければ動線計画にはなりません。都市計画に限らず建築設計で家や工場を建てる時、最初にするのは動線計画です。どのような人の行動があり、どのように動くかを調べた上で動線を整備し、必要な施設の配置を考えます。その動線に従ってどんな道路網を構築するのが最善か、メリット、デメリットを出して話し合いをしなければ良いまちづくりはできません。

今必要なのは黒部市全体を眺めた上での都市計画です。市の真ん中を通る背骨道路を中心にまちづくりを考えるのが基本です。背骨に沿って心臓や腎臓があるように、行政と防災の拠点の市役所と消防署をこの道沿いにすべきです。そして人の流れと量、いろんな時間を考慮しながら動線設計を立ててそれらの位置を決定して欲しいと思います。また、災害時に対策本部として物資や人の受け入れ、配送の点を考えると、国道との位置関係も重要です。さらに背骨道路を宇奈月方向に真っすぐ伸ばすように早急に計画して欲しいと思います。

現在、市内の至るところで広い道路が行き止まりになり、どのように使うのか首を傾げるところばかりです。私が堆肥舎を建てた時、黒瀬川の上を通る数十年前の道路計画が残っており、できるはずのない道にかかっているといつて何度も市役所に通う羽目になりました。古い計画で必要の無くなった道のために何枚も書類を作る作業は、職員の時間と税金の無駄使いに他なりません。まして背骨道路のような後から計画された道路との整合性もありません。年数を区切りつて古い道路計画を廃棄するっていうことはできないのでしょうか。

朝晩に限らず国道8号の渋滞も問題です。これが解消されないと、せっかく新幹線ができて市外の車が駅まで来るのに時間がかかり新幹線を利用する意味がなくなってしまう。8号バイパスが完成すれば、現在の渋滞が本当に解消されるのか検討する必要があると思います。また、魚津方面から来る車がわざわざ遠回りをしてまで、背骨道路を使うとは思えません。前沢から新駅までの道路の整備とその車の流れを考えた駅周辺道路と駐車場の計画は、今しておかなければいけない課題です。現在コーレで大きなイベントのあと、前の道は帰りの車で大渋滞を引き起こしています。これが新幹線の駅ができた時であれば、そこを通る利用者はその渋滞に巻き込まれることとなります。多くの人と一緒に集まる催し物イベント会場を駅周辺に設置することには慎重になるべきです。

また、荻生地区では4車線になって中央分離帯ができた場合、通学時の生徒や農作業時に大きな影響があります。また、生活道路になっている市道138号線、荻生駅前の道ですが、寸断されるため付近の住民は日常生活に支障をきたすこととなります。駅周辺は混雑解消のために4車線は必要ですが、その他は実状に応じて2車線の部分も残して欲しいと思います。そうすれば、先程の話も問題になりませんし、多少なりとも建設費用が浮くと思います。

先月、荻生からの陳情の際、担当部長は駅周辺や背骨道路という口実を免罪符にして、そのための費用

を最優先するっていう話をされました。新幹線は確かに重要な課題ですが、そのために黒瀬川の氾濫という住民の安全が後回しにされるのであれば、何のための新幹線かと言いたくなります。荻生での説明会では駐車場や施設の屋根の降雪を地下水で対応するというようなことを言っておられましたが、資源の枯渇、維持費、排水の問題で反対です。私の家では現在でも冬の融雪が始まると井戸水が枯れるということが起きています。市の職員の方は十分な調査をしてからと言いますが、問題なしと結論の決まっている調査に意味があるのでしょうか。ただでさえ荻生の住民は背骨道路によって集落が分断され、これからの生活に不安を覚えています。市役所からは背骨道路に伴い、荻生の環境も整備してもらえると聞いて住民は協力してきたのだと思います。それが今になって予算がない、後回しにされるのであれば、皆裏切られたと思うでしょう。

大型公共事業を導入すれば地域が活性化されるというのは過去の幻想です。駅や背骨道路ができた時、観光客の恩恵を受けるのはほんの一握りの人達です。今、市長から聞く話は新幹線の駅を利用する交流人口のことはわかりませんが、黒部市の住民の暮らしはどうなるのでしょうか。私達を待ち受けているものといえば、膨らんだ市債、交通事故、生活道路の寸断、集落組織の崩壊、治安の悪化と心配の種ばかりです。10年先に私達が年をとって乗る必要のなくなる新幹線のことより、これから私達が安心して暮らしていき生活環境整備の方が荻生の人間にとっては遥かに重要なことなのです。そのためにも安心して暮らせる黒部を基本にまちづくりをして欲しいと思います。その中の、その計画の中に住みよいまちの姿を見ることができれば、私達も協力を惜しむことはないでしょう。まず、隣の市や町を含めた5年後、10年後のまちづくりの計画を住民に見せて欲しいと思います。それを叩き台にして、このようなタウンミーティングによって住民の意見を聞きながら、この美しい黒部市のまちづくりを進めていくことを期待しております。よろしくをお願いします。

【市長】

ありがとうございました。Eさんからは、たくさんのこと言われたので、順番にお答え申し上げたいと思います。

まず、新幹線周辺の動線計画ということであります。このことについては、非常に動線計画が難しい地域でありました。皆さん方に是非ご理解していただきたいのは、新幹線の駅舎の位置が、なぜあそこだったのかと。例えば、もう少し北側、要は高速道路のインター側にもう300、400m動いていれば、今の背骨道路と言っている道路も左側に位置すれば、いろんな状況が変わった。アプローチも左折で行けますから、今の場合、右折右折で入らなきゃいけないような状況であり、いろんな状況が変わったんではないかと思えます。しかしながら、その新幹線の駅舎の位置ということについては、平成13年から新幹線市民ワークショップでいろいろ協議、議論させていただいたんですが、新幹線の駅舎の位置っていうのは絶対動かないのかと。例えば、もう200mこっちに動かしてくれと。今の新幹線の駅舎と高速道路の間地、一番接近しているところは15m程しかないのです。本当に利用しづらい間地ができあがってしまったと。このことについては、駅の東側、山側と西側の海側との分断、今、南さん言われたように、確かにその通りです。しかしながら、我々の先輩、先人の方々が新幹線の駅誘致のために40年間にわたって大変努力された結果、この新幹線の駅が黒部にできるようになったと。その時に駅舎の位置とか条件というのはやっぱり言えなかったんだろうと思うんです。もう少しこうして欲しかった、ああして欲しいってことは言えなかった。とにかく新幹線の駅誘致に先人の方々が大変な努力をされて、結果、誘致をすることができた。ところが、やはり決まってみて駅舎の位置をみたら大変条件が限られている。あの条件でやらざるをえないという中で、言われるように非常に動線的には不合理なところが確かにありますが、与えられた条件の中でどうするのかということについては、本当にいろいろ議論をして今の結論にあるということでもあります。まず、

それをご理解いただきたいと思います。

それともう一つは、黒部らしい駅周辺、駅舎をどうするのかと。先程言いましたように、富山とか高岡とか、あるいは金沢の駅とは違う黒部らしさ、森の中の駅、公園の中の駅、黒部らしい自然豊かな駅周辺を作りたい。そのことと利便性っていうのは実は相反するのです。駅前が公園であって森の中っていうことと、駐車場っていうのは、やはり普通は駅の前はロータリーで車止めになって、駐車場があったり、タクシーとかバスがそこへ乗り入れるわけですから、利便性というものと個性豊かさっていうものとは別ということだと思います。それをどう両立させるのか。そして、新幹線の駅舎、310mの細長い駅ができます。そして地鉄と併設、地鉄駅と併設させたいと思っています。そして、今言われたように基本的には鉄道運輸機構の設計は出入口、改札は1階です。2階にすることは可能です。その費用負担を地元ですれば可能です。そして2階か1階かという議論は、かなりの時間をかけてやりました。両方メリットとデメリットがあります。1階説と2階説とありました。2階にすれば言われるようにアップダウンして地鉄まで行くことはないとか、あるいは連絡通路を作らないとかっていうことがあったわけですが、いろんな議論をした結果、1階がいいというふうに、そういう市民ワークショップあるいは検討委員会、今の新幹線駅周辺整備計画の検討委員会の検討の結論もやはり1階がいいと。その結果、やっぱりデメリットもあります。なら地鉄へ行く人は連絡通路1階に降りて2階に上がってまた行くのか、またここで降りるのか。いろんなことありますが、総合的な判断の中で2階ではなく1階にしたということ。それが決して何にも考えないでやったわけではなくて、4、5年間の議論の中で結論を出したということ。是非ご理解をいただきたいと思いますというふうに思います。そしてまた、その利便性、動線については、駅舎の出入口っていうのは基本的には1カ所にしたい。山側東側に1カ所ございます。そしてしかも駅舎310mのセンターではなくて、かなり南側、魚津側寄りの偏ったところに駅舎の出入口がございます。これも我々が変えられなかった条件の一つです。出入口の位置は変えられないと。というのは、それはいろいろJR側の理由もあって変えられないということでもあります。そういうことを説明すると長い時間がかかりますから今日は説明いたしません。知りたい方は是非また別の機会にいくらかでも説明させていただきたいと思います。位置は変えられなかったということでもあります。その結果、我々は、なら反対側、西口海側にも駅出入口作ってくれということで、山側と西側と出入口を2カ所作るっていうことについては最終的には同意をいただきました。鉄道運輸機構とJR側からも同意いただいて西側にできる予定の駐車場からのアプローチ、あるいは身障者などの方の車が横付けにできる場所も当然作っておかなければならないんで、それは海側の西側に設けるなどというようなことで、相当いろんな点で研究した結果、こういう結果になったということでもありますので、今後まだ基本構想を作ったところでありまして、これから実施計画を作りますので、新幹線の駅周辺、そういう動線あるいは駐車場などのことについては、是非ご意見があれば実施計画の中で行なうことができるものについては、ぜひ採用させていただきたいというふうに思っておりますので、その点よろしくお願ひ申し上げたいと思います。

それから、次、背骨道路を中心に都市計画を進めるべきではないかということでもあります。8号線バイパスが新幹線開業までには供用開始、開通する予定であります。中新から新幹線の駅まで4車線道路で今、背骨道路、新駅中新線ということで整備を進めさせていただいておりますが、そこから山側、東側になっているのかという、先程ご質問もありました。当然、そこで行き止まりになってはならないわけでありまして、その新駅から宇奈月方面に対するその線を今地元の役員の皆さんともいろいろご相談させていただいて、協議をさせていただいております。いくつかのルートの候補はありますが、いろいろ大変な課題もたくさんありますので、当然、実現できる方法で県の方とも協議をさせていただきながら地元の皆さんのご理解をいただいて、宇奈月方面へのルートをできるだけ早く、これもできるだけ早く皆さん方にお示しいたしたいというふうに考えております。その背骨道路の周辺に庁舎なり消防庁舎を作るのが当然だ

というご意見でございます。そのことについては先程から言っておりますので繰り返しません、庁舎、消防庁舎の位置については市全体の合意が必要でありますので、いろんなご意見の中で議論をして意見をまとめさせていただきたいというふうに思っておりますので、よろしく願い申し上げたいと思います。

それから、次に言われましたのは、都市計画道路が行き止まりになって計画が全然ない、あるいは古い計画は早く廃止すべきだということであります。先程も言いましたが、この都市計画道路等につきましては、昭和40年から50年頃に計画されたものでございます。それから状況がかなり変わった点もございますし、新しい黒部市として今から新しい新黒部市の都市計画をしっかりと立てなければならぬ中で、これは見直しをします。当時、計画されたものでも、今、不都合あるいはなかなか条件が整わないものについては見直しをして変更をさせていただきたいというふうに思います。その結果、大変ご迷惑をかける方々も出てこれると思いますが、その点についてはきちんとご説明をさせていただいて、ご理解をいただきたいというふうに思っておりますので、よろしく願い申し上げたいと思います。

それから、次に今の国道8号の渋滞緩和のことを言われました。今、8号線は、特に混んでいるのは黒部魚津間、大体1日2,800台程通行しているというふうに伺っておりますが、実際、8号バイパスができて、そして先程言いました新幹線開業までには背骨道路を通して、そして先程言いました都市計画道路の前沢植木線、大町通りの市姫通りから背骨道路までの道、あるいは先程質問がありました東三日市の天神社のところの県道等が新幹線開業までにはほとんど開通いたします。それを目標に今いろいろ進めさせていただいております。ですから、新幹線開業時には現8号線の交通量っていうのは相当緩和はされるものと私は思っております。

ただし、先程言われた魚津から皆んな8号線バイパスを通して背骨道路から上がってくるかっていうと実はそうではありません。現在の8号線から海側の方々っていうのは、ほとんどそういうふうにはなるかもしませんが、山側の方々っていうのは、例えば新幹線駅までのアプローチっていうのは、当然、現8号線なり、現8号線から上、山手側を走ってこられます。そのためには今一番大事だと思っておりますのが、現8号線の山側、金太郎温泉の下のところの布施川に橋が架かっております。それが田家の山田まで今開通しておるわけでありまして、その山田地区から今の温泉病院さんの下を通して下垣内前沢線、要は前沢パークタウン、あこを抜けて下垣内前沢線につなげるということを進めておりまして、平成24年、今から6年後くらいまでには供用開始できると思います。ですから、新幹線開業までには山側の魚津方面からのアプローチ等も間違いなく整備される予定でありますし、その農免農道あるいはふるさと農道とつないで朝日町まで、今一部、若栗地区で高速道路の上の方で農免農道ふるさと農道の整備ももう始まっております。今は、埋蔵文化財調査が何か終わった段階くらいですか、始まっておりますので、新幹線開業までにはそれらの道路整備をしっかりとやっていかなければならないというふうに思います。

今の計画では、新幹線は、1日2,700人という乗降客の予定があるんです。その方々のためだけではない。そのことを機会にいろんなそういう、今多くの課題がある道路整備とか、そういうものを黒部としてやはりこの機会できちっと整理する必要があるというふうに思っております、それが大きなチャンスだという意味であります。自分が10年に1回新幹線に乗るか乗らないかという、そういう議論ではなくて、新幹線というものができることによっていろんな可能性が生まれるということをご理解いただきたい。それは企業にとってでもそうですし、皆さん方の生活にとってでも3時間半という時間的な距離より、実際2時間になったことによって非常に近く感じるこの距離の効果っていうのは大変大きいものがあるというふうに思っておりますので、その点についてもご理解をいただきたいというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

それから次は、背骨道路によって荻生地区の皆さんの生活が大きく影響されるということ大変心配しております。このことについては荻生地区の方も何人もおられますので、本当にご相談したい地区がありま

す。現8号線から新幹線の駅までは27m幅の4車線で計画されております。これは県道で行っておりますので27m幅の4車線。そのことによって用排水路の付け替え、あるいは農道とか生活道路との接続、その中で一番私も心配しているのは、新堂のところでは8号線からすぐ山側にあります松倉農機さんの上の部分にあります交差点、やはりここが一番心配です。4車線道路と今の市道の交差点付近が、今、なかなかうまく解決できないでおります。どういう計画にするかということについての結論は出せないです。なぜなら、4車線道路に来て右折帯が設けられることになると思います。そうすると、その右折帯、現8号線に出るときの右折帯を設けることによって、その待機場が今の市道を越えてまだ後ろに下がるんです。そのことによって、あの交差点の付近をどうするのかということで、皆さん、その近くに住んでおられますから特に心配しておられると思うんです。あの部分について、どういうふうな交差点を作るかっていうのは、市とか県だけでは決められません。当然、公安委員会、交通安全対策上どうあるべきだという公安委員会の許可が必要ですから、なかなか難しいところなんです。そこで、どう振るのかと、今の市道を少し山側に振るとかもできるんですが、川の関係とか他の条件とかでなかなかそれもできない。では、交差点付近をどうするか、実は今、結論は出せません。当面は、やはり2車線も含めて、その部分をどうするのかということについて、もう少し地元の皆さんとも協議をさせていただいて、暫定2車線も含めて、皆さん方のご理解をいただきたいというふうに思っております。桜井中学校の生徒の通学道路となりますし、農作業の方々が多く利用する道路でもありますので、その辺については慎重に検討を進めていきたいというふうに思っておりますのでよろしくお願い申し上げたいと思います。

それから、もう2点程言われたのでお話しますが、先程、荻生地区の要望会の時に大型プロジェクト事業優先で市民生活に影響する、安全、安心の部分の後送りにするのかというお話がございました。確かに先程から言いますように、100年に一度のこの大きな転換期を迎えたこの黒部市の中で、この10年間に何としてでもやらなければならない大きなプロジェクトがいくつもあります。それは先程から言っているお話であります。それと同時に、安全安心につながるということについてもやっていかなければならないわけでありまして、そういう中で、地区の要望会、今年も16地区でいろいろお話をさせていただいたわけでありまして、各地区からは327項目の重点要望が出てきました。16地区からです。その中で、殆どの部分が、やはり地元の安全安心とかいろいろな活性化の要望が多いわけでありまして、それについて、一年間で行なうことができるものは概ね2割程です。327の内、60から70程のものが何らかのアクションを起こすことができるものだというふうに思っておりまして、安全安心の部分は当然最優先でありますし、後送りするつもりもございませんので、そういう中で行いたい。黒瀬川の河川改修の話もされました。それらについても、いろいろ進めるように手を尽くしておりますので、是非ご理解をいただいて、そういうものを全部後送りにして、大型プロジェクトだけやっているんだということは決してございませんので、是非その点ご理解をいただきたいというふうに思っておりますのでよろしく願いいたします。

それから、駅周辺設備の中の消雪、雪対策どうするのかということでもあります。消雪については反対だというご意見だったわけでありまして、今、市では、新しい消雪については特別なところがない限りは行なわないというのが基本的な考え方でありまして、機械除雪が基本であります。ただ、新幹線駅周辺については、どういう方法がいいのかということについては、慎重に検討させていただきたいと思いますが、例えば交流プラザ、大きな屋根がかかる部分の屋根雪などについてはどうするのかというふうなことについては、いろいろ条件もありますので、やれるところとやれないところがありますが、それらも含めて駅周辺の消雪、雪対策についてはどうするのかということについては、これは地元の方しか分からないんですが、雨水対策もあります。駅周辺が整備されることによって、その雨水の処理をどうするのかということについても、これ大きな問題です。当然、その雨水を受けるための貯水池を作らなければならないと思っております。できれば下流地区で作りたい。上流で作る方法もあります。ポンプアップしたりいろいろ

るな方法もありますが、できるだけ自然用水でありたいわけでありまして、是非、下流地区で地元のご理解をいただいて貯水池を作っていきたいというふうに思いますので、そういう意味では雨水の処理あるいは消雪で使われる水の始末についても、その辺を慎重に考えていかなければならないのではないかというふうに思っておりますので、よろしくお願ひ申し上げたいというふうに思います。

最後に市債残高の話がされました。黒部市の借金でかいとあらにどうすらか、ということ。このことについても少しお話ししたいと思います。新市、新しい黒部市として4月の時点ですが市債残高が537億円程ありました。今、535億円程です。これは借金、もちろん市債残高ですから借金が残っているっていう話なんですけども、その借金を何で作ったのかということがまず一つあります。何をしたらこれだけ借金できたのかと。一番多いのは下水道です。下水道で市債残高180億円、次が病院70億円、水道で30億円、道路40億円、合わせればもう60%位になります。要は、地域のインフラ整備をしたことによって多くの借金ができた。例えば、下水道が180億円で一番多いんですが、その結果、農集排も入れて公共下水道の整備が85%まで進んできた。進めたからできたんです。進めたところはどの地区にもあります。ですからそれは地元の財産として、今、下水道としてきれいな水、環境を保全するためにそういうものを整備したっていうことについて、私は間違っていないかと思ひます。例えば、黒部市は魚津市よりも市債残高が多いのか、ということ、それも事実です。それは市民病院が一番の原因だと思ひます。70億円程あります。その結果、あの立派な病院ができていますし、それが今のところ健全に運営されているということでもあります。ですから、借金作ったというのは、なぜ作ったのかということも、是非理解をいただきたいと思ひます。

そこで、借金がたくさんあるのに今後も借金を重ねるのか、というご質問だったと思ひます。先程から言っているような多くの大型プロジェクト事業を行うことによって、この総合振興計画の10年間で私どもの予想は約150億円の借金が増えます。しかしながら毎年25億円、公債費として借金を返しております。25億円の内20億円が元金です。利息分は5億円あると思ひて下さい。20億円を10年間で借金返済したら200億円返せるんです。200億円を返しながらか新しい事業によって、新規に市債が150億円増えらると。当然、行財政改革、要は無駄な物はやめなくてははいけないけども、今やっていることを大体想定していったら150億円の市債が増えて、そして今の予算の中では毎年25億円程返していますから、約200億円の元金が減る。そうすると、これだけのことをやりながら、私らの計画は50億円の借金を返せるという見込みでやっています。増やすことはありえない。増やすような事業はやらないというふうに私も思っておりますので、これだけのことをやって地域の活性化とかいろんなまちづくりをやって、なおかつ借金がいくらかでも減らせれば私はやるべきだと。何もしないでじっとして皆でおかゆをすすって何にもしないで借金を返すということだけに集中することは私はないと思ひます。せつかくのこのチャンス、先程から言うようにいろんなチャンスがあるわけでありまスカ、借金は増やしません。私は、それは宣言いたします。そして、なおかつ、これだけのことがやれる。それは合併協議の時に覚えておられる方は、新市の建設計画の時にも今後の見通しっていうことで投資的経費を315億円10年間で使いましょ、使えるんですよ。その中で今の事業を行うと。当然、総合振興計画というのは、財政の予算に裏付けされた財源の見通しのあるものだけ立てますから、むやみに計画を立てているわけではないということをご理解いただきたいというふうに思っておりますので、是非その点もよろしくお願ひしたいと思ひます。以上です。

【事務局】

Eさんよろしいでしょうか。予定の時間だいぶオーバーしておりますが、このまま進めさせていただきますと思ひますのでよろしくご協力の程お願ひ申し上げます。

若栗地区のFさんおられますか。では、よろしくお願ひいたします。

【Fさん】

若栗地区のFでございます。よろしく申し上げます。私の方からは総合庁舎の建設について一点だけ提案させていただきます。前沢とか三日市の方からも先程提案がございましたが、三日市小学校の跡地とかコラーレの近くとかいろいろの候補地が噂になっておりまして、新市の人口分布から見ましても話題の地も選考の一つとは思いますが、市長は先程、当分は合併はないとおっしゃいましたけども、将来必ず広域的な市町村合併の時代が来るんじゃないかというふうに私は思っております。皆さん読まれたと思います。が、今月の15日の読売新聞に、読売新聞で行なった全市町村アンケート調査の結果が出ておりましたが、今年3月31日までに合併した自治体の内68.6%の市町村が今後も厳しい財政状況が続く、また29.5%、約3割が再合併が必要だと言っております。また、黒部市はどのように回答されたか分かりませんが、現に介護やゴミ処理対策について、一市町村では運営が困難なことから、新川地域介護保険組合や新川広域圏事務組合の下に広域行政が行なわれておりますし、それから、先の合併の際、入善町、朝日町との合併を決めた合併協議の際にも、市庁舎の位置が元で合併が破綻したと聞いておりますことの教訓からも、効率的な行政運営をつかさどる立地条件を考えました時には、新駅周辺は富山県の東部玄関口としての相応しいまちづくりが必要なこと、それから市長からもお話がありましたが、新駅中心に道路等の交通網が整備される等の利便性からも、将来の大同合併を視野に100年の計を考えた時、その行政を担う市の総合庁舎は新駅周辺に整備されることが最善と思われませんが、いかがでしょうか。よろしく申し上げます。

【市長】

ありがとうございました。新庁舎の位置、先程言いました位置とか規模、内容につきましては、これからの議論として、それぞれの地区のいろんな考え方、是非言っていただいて、また協議をさせていただいて意見をまとめていきたいというふうに思いますので、その点またご理解いただきたいと思っております。

広域合併、今後、大同合併があるんじゃないかと。私も将来必要だと答えました。その将来というのは10年、20年先ではなかなか難しいなとは思いますが、その先いったら必ずそういう時代が来るというふうには思っておりますし、そういうお答えをしたというふうに記憶しておりますので、そういう時代がいつか来るというふうに思います。

新川広域圏とか新川地域の介護保険組合のこともいわれましたので、ゴミとかし尿とか火葬とか、そういう広域でやった方が効率のいいものについては、今それぞれ一緒に行っておりますので、合併をする、しないにかかわらず、そういう広域圏事業、必要なものは一緒にこれからもやっていきたいというふうに思いますので、それらは合併するしないにかかわらず進めていきたいと思っております。新川介護保険組合は、魚津市が入っておりませんので、黒部と入善と朝日で今行っております。新川広域圏は魚津と黒部と入善と朝日。それぞれ枠組みが多少違っておりまして、いろんな状況があります。大変難しい状況があります。ですから、広域事業は当然行なっていかなければならないということと、先程言いましたように相手があることでありますし、歴史的ないろんなことがあって、なかなかこれまでのいろんな歴史とかいろんな状況を白紙に戻して協議をするっていうことは、私が今、皆さん方のおかげで市長にならせていただいて2年4カ月ほど経った中では、なかなか難しいなという感想を、今持っておりますので、よろしく申し上げたいと思っております。その大同合併とは別に、新幹線駅周辺に庁舎がどうだっというご意見、理由をきちんと皆さんでまとめられて、全市民の好評を得られるのであれば、それは別に問題ございません。将来の合併を見据えたという話になりますとなかなか難しいんじゃないかというふうに思っておりますのでよろしく願いいたします。

【事務局】

Fさんよろしいでしょうか。

【Fさん】

どうもありがとうございました。

【事務局】

本日予定している方のご質問は終わったわけですが、かなり時間も過ぎておりますが、本日このタウンミーティングにご参加の皆様から少しご意見いただきたいと思っております。寒くなって大変申し分けありませんが、少しご意見いただきたいと思っておりますので、ご発言なさりたい方は挙手をお願いしたいと思っております。

5人おられますが、お1人1問ずつということをお願いしたいと思っておりますが、最初に手あがりしましたそちらの男性の方。どうぞ。

【Gさん】

三日市地区のGです。一つ市長に聞きたいと思っておりますが、一人の勇気ある市民のおかげで1,450万円という大きなお金が闇に消されなくなりましたけども、この施設公社の1,450万円を使い込みしたことに対して、なぜ刑事罰ということを起こさなかったのか。なおかつ、会計監査という役職がいながら何年間にわたり1,450万円というお金を動かしてしまったのか。会計監査の責任というと民間では公認会計士という重い責任をもってやっておりますが、ただハンコを押すだけの会計監査であったのか、それだけを説明いただきたいと思っております。

【市長】

ありがとうございました。今ご質問された財団法人施設管理公社、ここの建物の中に事務所があるわけですが、ここの不正流用につきましては、皆さん方に大変ご心配をおかけしました。心からお詫び申し上げたいというふうに思っております。今、施設管理公社は、指定管理者として運営がされているわけですが、当然今言われたように監事として市の代表監査委員あるいは市の今現在の助役が監事を行っておりながら、不正を見抜くことができなかつた。平成16年、17年の2年間にわたって、今いわれた1,450万円の交付金が数十回に渡って出入りがあると。結果的には年度ごとには残高があつておつたわけですが、その途中では不正流用があつたということは調査の結果、事実であります。このことによって、戻っているとはいえ、刑事責任がなくなるかということについては、全く罪はなくなりません。罪がなくなるわけではございません。今言われるように、では、なぜ告訴しなかつたのかということですが、当然、我々の運営指導の管理の責任もあるし、そして交付金も戻っており、また本人は懲戒免職を受けたということであつて、このことについては、今後の監査体制のあり方をしっかりと見直す等の今後の対策を含めて今回は刑事告訴を見送つたというのが事実でございます。是非、その点につきましてはご理解をいただき、そしてまた、この件について心からお詫びを申し上げたいというふうに思いますし、今後の監査体制、今、監査やっていただいております監事、代表監査委員という方が黒部市に2人おられます。合併直後でしたから今年度の監査が35会計にわたつてあつたわけでありまして、その内容を精査するというになれば相当の時間が必要であります。ですから、その中身のことは概ね信用しながら、ポイントだけチェックしていたということが事実であります。ですから、今後は監査委員の人数あるいは監査の方法、その全ての体制を見直すということで指示をいたしておりますし、これからは

定期的な監査だけではなく、不定期な監査も含めて、途中でも調査をするというようなことも行なっていきたいというふうに思っておりますので、こういうことが二度と起こらないように徹底したいというふうに思います。大変ご迷惑をおかけしましたことにお詫び申し上げたいと思います。

【事務局】

よろしいでしょうか。

【Gさん】

最後に聞くんですけども、黒部市でそういうことがあった場合にはもう刑事告発をしないということですか。

【市長】

いや、状況によると思います。厳正に対処していきたいと。もう二度こういうことはあってはならないと思いますので、今度は、たとえ戻ったということであっても、今後はこういうことがあれば厳正に対処していきたいというふうに思っておりますのでよろしくお願いします。

【Gさん】

分かりました。

【事務局】

それでは次のそちらの男性。

【Hさん】

荻生のHです。今程の総合振興計画の策定の基本方針の中で、また、今公表されております行政改革大綱の素案の基本方針の中でも、行政の一部を市の職員と市民が協力して働く協働ということ、先程ちょっと言われましたけども、大変重視しておられる。それで、これは黒部ばかりじゃなくて、魚津も富山もやろうとしておられるわけです。それで今まで、何でもかんでも市にお願いしとったけども、何でもは市で、かんでもは自分達だと。こういうようなことかなと思っておりますけども、どうしてそういうことにしなくてはならなくなったのか。これは三位一体改革とそれから地方分権で、よく分からないけれども、お金があまり入ってこなくなったと。それで、皆さんも一つ協力すると、はっきり、そういうのであればそう言ってもらいたいということです。

それからもう一点、今日のテーマは総合振興計画でございますけども、これと非常に密接な関係のある行政改革のことがあんまり話に出ていません。どうして今日の説明に出ていないのかということをお大変疑問に思っているわけですけども、それで私も抱いておりますけども、17年の行政改革大綱については、その結果というものは殆どもやもやになって、発揮していないわけです。これは、市長さんも結果が大事だということをお選した次の日の新聞でも言っておられるわけです。だから、これはやっぱり、結果がきちんとしていないと、どれだけこういうことをやります、ああいうことをやりますと言っても、誰も信用しないので、これはしっかりと結果を出してもらわないといけないということ。

それと、もう一つ、これは我田引水になりますけど、さっき振興会の要望の実施が20%と言われましたけども、はっきり我々も言わせていただければ、行革をしっかりとやって、そこからのお金で20%からアップしてもらいたいと。これは、そればかりじゃいけないと思うけど、はっきりいえばそういうことだと

思うので、行革をしっかりやってもらいたいと思います。以上でございます。

【市長】

ありがとうございました。事務局、17年度の行革大綱の結果の公表は。

【事務局】

合併になりましたので、やっていません。

【市長】

分かりました。

まず、協働ということ。三位一体改革などで財政が厳しくなったから、その一部を市民に担って欲しいということではないかというような話ですが、一部はそうであります。しかしながら、基本的には私はこう思っております。戦後60年が過ぎて、本当に社会が個人主義に変わっていったと。地域社会でかつては本当に地域で支えながら皆さんが生活し我々が生活していたのが個人主義になっていった中で、いろんな課題、問題が起きてきた。それらの多くを行政に預けると。そのことによって行政サービスってというのは、どんどん増えてきたんです。行政サービス、公共サービスってというのは、年々どんどん増えていっております。その中で、私は当然、行政もそれに対して対応していかなければならないんですが、今の財政では、しかも今の行革の話もそうですが、職員の数は当然減らしてくれということもいわれる中で、行政サービスがどんどんどんどん増えていっているのに職員は減らせ、行革は進めよ、ですから全部を賄うことはできない。ですから、その一部を市民の皆さんであったり、企業であったり先程もパパママサポートセンターの話もありましたが、そういうボランティアの方であったり、そういう方々でお互いに協力し合って一つの公共サービスを全部賄うってというのが私は基本的な考え方だと思います。そこに、当然、今の国の財政の状況の中で三位一体改革等で、いろんなものが跳ね返ってきます。それも含めてあまりにも行政に求めすぎような社会になったことを、今度はもう少し過去、皆さん方の若い頃にはもっと地域でしておられたものがいっぱいあったはずです。そういうところに協働という形で戻していきたいというのが、私の考え方です。是非その点を理解いただきたいと思います。

それから、平成17年度の行革大綱、黒部市の行革大綱の結果が見えてないということ。進捗結果はどうなったかと。行革大綱の中に示された数値目標については、ほとんどクリアーしています。ですからうやむやにしていることは決してございませんし、今、そういうことを公表して終わっているのかなと思っていましたが、やっていませんということで、それはなぜかということ、17年度は、宇奈月町も行革推進プランも作られたわけありますから、それらも合わせて行革推進会議を改めて新市として今行っております。そこで、旧黒部と旧宇奈月のものを合わせたようなものができてくると思いますが、それをしっかりとまとめて、その数値目標をしっかりして、大事なものはプラン、ドゥ、チェック、アクション、計画と実行とをきちんと確認をして、次の方向につなげていくというサイクルをしっかり立てて生きたいし、皆さんにその結果を示していきたいというふうに思っておりますので、是非ご理解いただきたいと思います。

【Hさん】

今、示したと言われるけど、平成17年度からの3年間で26億円、財源不足を解消するということが出ていたわけです。それが出ていない。

【市長】

すいません、だから先程も言いましたように、17年度の行革大綱の結果は公表しなかったということでありますから、是非そういうことがないように、今18年度では新たなものを策定していますので、ご理解いただきたいと思えます。

【事務局】

どうもありがとうございました。それでは次の方。

【Iさん】

三日市地区のIです。新しいプロジェクトの課題は一杯あると思うんですけど、幹線道路について、隣の魚津とか入善、JR黒部駅から8号線、その道、今先程市長は、昭和40年から50年と言われたんですけど、都市計画、今見直して言われたんですけど、あれ40年前からあるんです。それで、今うちの近くの道路で気付いたことをずうっと思っているんですけど、道が広くなって、短くなって寺町までだったら歩道がきちんとできているんですけど、うちのところの町内なんかだと歩道なんかでも、電柱前にあって、そして、小学生とかお年寄りなんかだったら、はっきりいって白線から出たり、危ないんです。言われました都市計画の見直してどうなっているのか、ちょっとお答え下さい。

【市長】

その点については、先程言ったと思うんですが、新市になった都市計画道を見直しをかけたいということで今お話したつもりであります、今、Iさんが言われるのは、黒部駅から梶町までの路線、都市計画道路が80%ぐらい終わっているんです、残り1,800mぐらい、そのうち1,300m程が整備されて、残りが残っていると。それがなかなか一向に進まないという話ですよ。Iさんの家の前の通りの話ですよ。

そのことについて見直しをするということは、その路線はないと思います、私は。あこまで進めてきているし、今の三日市保育所周辺の土地区画整備事業の関係もございまして、後は予算的なこととか優先順位だけの問題だろうというふうに思っていますので、是非その点をご理解いただきたいと思えます。

【事務局】

そうしましたら、そちらの男性の方。

【Jさん】

私、石田地区のJですけど、これから老人が増えるに従って、医療費が段々増えてきますから、病気になって苦しむのより、予防が大切です。一月に1回あって、1年に12カ月。1年に一度だけ無料の検診ありますが、1カ月に1回、1年12カ月ずつ安い費用で予防検診できる制度と市民病院の人間ドックを3分の2程の市の補助でやって、治療するよりも病気にかからないように、予防の方にもっていった方が、医療費も少なくなっていくのではないかと。その点一つよろしくをお願いします。

【市長】

介護予防、健康増進介護予防については先程から言っておりますように、大変重要だというふうに思えます。人間ドックなども多くの補助ができればいいんですが、病院の財政の方も大変限られておりますので、予防については新川地域の介護保険組合での地域密着型の予防事業についていろいろ研究はしていきたいと思えますが、あまり大きな負担になるような制度は慎重に検討していきたいというふうに思えますので、お気持ちは十分に分かるわけではありますが、今後の課題として検討させていただきたいと思えます。

【Jさん】

病気になって医療費がかさむよりも、その予防の検診に多少費用がかかっても、その方が安上がりだと思います。

【市長】

その辺は、よく両方のバランスを見ながら検討させていただきたいと思います。

【事務局】

それでは、これで最後となりますが、どうぞ、よろしく申し上げます。

【Kさん】

東三日市のKです。市長さんには前に会っていますので、道路の話はやめておきます。

それで、私の提案ですが、市ができるならばの話なんですけども、今、やかましく言われております太陽光発電、風力発電、水力発電、昔からありますけども、そういう計画があればと思います。ちょっと聞いてみると、前に太陽熱は計画されたんですけども、何か採算が合わないような話は聞きましたけども、そうだったら、今、皆さん方からいただいております下水道の水を有効に使いまして、水力発電をやったら、安定しておりますし、いいんじゃないかなと思います。風力の場合は風が吹かないと駄目ですし、羽に鳥引っかかって死ぬこともありますし、太陽は雨降りだと駄目ですし。水は安定していますし、これからも段々と増えてくる状況にありますからいいんじゃないかと思うんです。市がそういう事業をして良いのか悪いのか、それはちょっとわからないんですが、できるものなら、そういったことをやった方がいいんじゃないかと思ひまして提案させていただきました。

【市長】

ありがとうございます。今、質問された新エネルギー、太陽光とか風力とか水力、水力も小水力なんですけど、これは大変重要な課題でありますし、総合振興計画の中にも盛り込まれていくんではないかと。地域エネルギーということで盛り込まれていくんではないかなというふうに思っております。これだけ原油も上がってきたり、外国、海外との関係が緊張している中で、どうやってこの新エネルギーを確保するかと。国の方は正直なところあまり今のところ積極的ではございませんが、将来的には大変重要だと思っております。

黒部市とすれば、特定公共賃貸住宅、石田と生地の間にあるんですが、新しい市営住宅、特定公共賃貸住宅の方で太陽光の発電を実験いたしております。あまり費用対効果の面では厳しかったわけですが、そういう実験も市として行なっているということ。

それから新川牧場で風力発電、これは民間でありますけど、風力テストを2回にわたって行ないましたが、風力、風が足りないということで、採算面であわないということでもあります。また、あちこちに風力発電が全国的にはできているわけですが、非常に課題が多いです。雷に弱いとか風の切る音がするとか、いろいろ課題が多いわけでありまして、なかなか難しいと。

そういう中で、今言われたように水力が私も一番魅力があると。この新黒部の中では水の確保っていうことについては、十分考えられるし、また、そこで水力発電に水を使ったからといって水が減るわけではございませんので、非常に魅力的だと思います。しかしながら、水については水利権があって、なかなか思うように使わせていただけない、市は水利権を全く持ちませんので、なかなか難しいと。ただ、黒部川

左岸地区改良区さんの方で今年度の予算の中でマイクロ水力とか、ミニとかマイクロって言葉も意味がありまして、発電規模によって違うんですが、一番小さいマイクロ水力の実験を行ないたいということで黒部川左岸土地改良区の方では今年度予算化がされておりますが、まだ実施はされていないということで、とにかく水の発電、小水力については非常に関心があります。今これをやらせてもらえれば非常に黒部市とすれば効果があるのではないかと思います、いろいろ課題があるということでありまして、是非、研究は市としてでも取り組んでいきたいというふうに思っておりますので、よろしく願います。以上です。

【事務局】

どうもありがとうございました。だいぶ時間も過ぎてしましまして、大変申しわけなく思っております。以上でこのタウンミーティングを閉じさせていただきたいと思っております。それでは閉会にあたり、堀内市長から本日お集まりの皆様に対するお礼を含めましてご挨拶申し上げます。

【市長】

大変長時間にわたって、ありがとうございます。また、桜井中学校校下は、市民の皆さんがたくさんおられる地区でありまして、大変熱心にいろいろご発言いただきましたことに対し心から感謝申し上げたいと思っております。お互いにいろんな情報を共有するってということが大変重要であります。お互い、人伝いで聞いた話とか自分が想像している話とは、かなり現実とは違っていることがたくさんありますので、是非とも、直接皆さん方と色々なお話をさせていただく機会を増やしていきたいと思っておりますし、また、直接色々なお話もさせていただきたいというふうに思っておりますので、これからは大変でしょうけども、新しい黒部市の発展のためにお互いにこういう場を作って力を合わせていきたい。それこそ、協働の世界を作っていきたいと思っておりますのでよろしく願ひ申し上げて、一言閉会の言葉にかえさせていただきたいと思っております。どうかよろしく願ひいたします。どうもありがとうございました。

【事務局】

どうもありがとうございました。皆様方にはお忘れ物のないようにご確認をお願いしたいと思います。また、アンケートにつきましては、ご記入の上、会場出口の係りの者にお渡しいただきたいと思います。どうもありがとうございました。